

協会だより

(社)秋田市建設業協会

目 次

1. 定例会議
 役員会
2. 委員会新委員を選任
3. 協会事務局長 高橋氏退職
4. 平成18年度土木部会定時総会を開催
5. 平成18年度建築部会定時総会を開催
6. 平成18年度2級建築施工監理技術検定試験—ご案内—
7. 年間23名が作業中の熱中症で死亡 ～熱中症の季節到来～

1. 定例会議

◎ 役員会 6月19日(月)

《報告》平成18年度全中建通常総会について報告

全中建通常総会が6月8日に仙台市江陽グランドホテルで開かれ、工藤前会長・三浦会長・林副会長及び事務局が出席しました。

岡本会長の挨拶の後、議事に入り平成17年度事業報告並びに収支決算報告、次に平成18年度事業計画(案)及び収支予算(案)が審議され全会一致で可決承認されました。

続いて建設業振興に尽力された44名の表彰があり当協会からは工藤吉春氏が役員功労賞を受賞されました。

次に国土交通大臣代理等の祝辞、続いて記念講演として毎日新聞専門編集委員の松田喬和氏の講話の後、懇親会に移り盛会裡に終了しました。

2. 委員会新委員の選任

諮問・運営・企画及び工務の各委員会の新委員が6月27日(火)に次のとおり選任されました。

諮問委員会

委員長	加賀屋 哲 雄(株) 加賀屋 組)
副委員長	工 藤 吉 春(株) 工 藤 組)
”	長谷川 駒 造(株) 長 谷 駒 組)
委 員	本 郷 真(株)本郷建設工務所)
”	伊 藤 久 一(中 央 土 建 (株))
”	加 藤 憲 成(株)英明工務店)
”	山 岡 緑三郎(山 岡 工 業 (株))

運営委員会

委員長	淡 路 武 男(淡 路 建 工 (株))
副委員長	古 戸 武(大和施工建設(株))
”	伊 藤 徳 雄(名) 伊 藤 組)
委 員	石 井 典 夫(石 井 建 設 (株))
”	伊 藤 四 郎(株) 伊 太 土 木)
”	伊 藤 満(伊 藤 工 業 (株))
”	石 黒 望(豊 興 産 (株))
”	岡 部 茂(株) 岡 精 組)
”	田 村 典 美(株) 田 村 建 設)
”	三 浦 稔(株) 三 勇 建 設)

企画委員会

委員長	鎌田 豊(有丸豊建設)
副委員長	安田 和夫(有安和建设)
〃	栗野 俊則(株栗野工務店)
委員	浅利 健一(株佐々木組)
〃	石黒 力(株石黒組)
〃	岡部 秋男(株岡部建設工業)
〃	加藤 俊介(加藤建設(株))
〃	工藤 堅裕(工藤建設(株))
〃	小林 敬悦(有小林土木)
〃	渡辺 憲介(旭建設(株))

工務委員会

委員長	酢屋 太(北日本開発コンサルタント(株))
副委員長	佐藤 勝義(八橋技建工業(株))
〃	足利 公雄(株足利工務店)
委員	阿部 幸雄(株水原工務店)
〃	加賀谷 亨(加賀伊土建(株))
〃	木曾 春男(有木曾組)
〃	工藤 文彦(株工藤興業)
〃	瀬下 和夫(瀬下建設工業(株))
〃	高島 慶美(有高島興業)
〃	千葉 利則(株中山組)

※諮問の委員は年齢順、運営・企画・工務の各委員は50音順

3. 協会事務局長 高橋氏退職

平成18年6月末日をもって高橋秀夫氏が退職いたしました。

高橋局長は平成13年4月に協会にお入りになり以来5年3ヶ月の間わが協会のため、なみなみならぬご奮闘を重ねてこられたことに対し衷心から感謝申しあげたいと思います。

今後とも協会のため末永くお力添えやご指導を賜りたいと思います。

今後のご健勝とご多幸を心からお祈りいたします。

4. 平成18年度土木部会定時総会を開催

平成18年度土木部会定時総会は5月29日(月)午後4時30分から第一会館本館において34名が出席し開催され、平成17年度事業報告並びに決算を承認。次に平成18年度事業計画(案)並びに予算(案)を審議し原案のとおり承認されました。次に任期満了に伴う役員改選が行われ、新役員及び相談役が次のとおり選任され総会が終了しました。

部会長	三浦 伸一郎	副部会長	酢屋 太
副部会長	堀井 三雄	副部会長	淡路 武男
会計幹事	奥山 直巳	幹事	本郷 真

幹事	鎌田 豊	〃	岡部 茂
幹事	伊藤 徳雄	監事	佐藤 勝義
監事	工藤 堅裕	相談役	加藤 憲成

引き続き、鈴木農林部長、鎌田建設部次長ほか市当局幹部5名を招待し懇親会を開催し、盛会裡に終了しました。

5. 平成18年度建築部会定時総会を開催

平成18年度建築部会定時総会は6月2日(金)午後4時30分から秋田キャッスルホテルにおいて26名が出席し開催され、平成17年度事業報告並びに決算を承認。次に平成18年度事業計画(案)並びに予算(案)を審議し原案のとおり承認されました。次に任期満了に伴う役員改選が行われ、新役員及び相談役が次のとおり選任され総会が終了しました。

部会長	林 明夫	副部会長	加藤 俊介
副部会長	足利 公雄	幹事長	阿部 幸雄
幹事	石井 典夫	幹事	加賀谷 亨
〃	栗野 俊則	監事	浅利 健一
監事	瀬下 和夫	相談役	伊藤 久一

引き続き、5時30分から講習会を開催し、中澤都市整備部長から「秋田市におけるPFI事業の取り組み」について講話があったのち、中澤部長ほか市当局幹部8名を招待し懇親会を開催し盛会裡に終了しました。

6. 平成18年度2級建築施工監理技術検定試験—ご案内—

○受験申込受付期間

書面申込受付 平成18年6月30日(金)～7月14日(金)

○試験日 平成18年11月12日(日)(学科・実地試験)

○試験地 青森、仙台、東京 他

○受験資格 学歴又は資格により一定の実務経験年数を有するもの

○申込書類提出先及び問い合わせ先

(財)建設業振興基金試験研修本部
105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12
虎ノ門4丁目MTビル2号館3階
TEL 03-5473-1581

○受験用紙販売先

(社)東北建設協会 秋田支所
010-0951 秋田市山王4-4-31
TEL 823-3148

7. 年間23名が作業中の熱中症で死亡

～熱中症の季節到来～

秋田労働基準監督署

秋田でも、最高気温が25度を超える日が多くなり、今後最高気温が30度を超える真夏日が増えるにつれ、熱中症の対策を考えなければならないシーズンが近づいてきました。

このほど、昨年1年間に作業中の熱中症で死亡した労働者が全国で23名であること又、業種別にみると建設業が13名と圧倒的に多く被災している状況にあることが、厚生労働省のまとめで分かりました。

特に昨年は猛暑で7月及び8月にかけて14名の死亡災害が発生しましたが、熱中症は気温30度未満でも発生するので注意が必要です。

建設業などの屋外型の現場における熱中症対策のポイントは、

- ① 作業環境管理（日よけ・散水・休憩所・飲料など）
- ② 作業管理（休憩・服装・保護具など）
- ③ 健康管理（睡眠・栄養・教育など）

で、それぞれの対策を効果的に行うことが重要です。

昨年死亡災害につながった原因として、

- ① 熱中症の認識がないために症状が悪化して初めて病院へ搬送され、手遅れになったケース
- ② 日除け等適切な休憩場所が確保されていなかったため、日中を通し直射日光等高温環境下にさらされて被災したケース
- ③ 水やお茶等が準備され水分補給を行っていても、塩分の補給がないために被災したケース
- ④ 被災当日以前に体調を崩していたにもかかわらず無理に作業を行って被災したケース

などが少なからず認められております。

従って、死亡災害の防止のためには、何よりも熱中症に対する認識を深めて頂くとともに、熱中症と疑われる症状が認められた場合にはたとえ症状が軽いと思われる場合であっても直ちに医師に受診させることが重要です。

また、水分補給の際には若干の糖分と併せ塩分を含んだ飲料等の補給を行うとともに、作業当日の各人の健康状態を十分に把握した上で作業を行わせることも重要であると考えられます。

熱中症とならないためにも、今のうちから十分な知識を持ちまた適切な予防対策が講じられるよう十分な備えが必要です。

熱中症予防のポイント

これからの季節、職場の気温・湿度はぐんぐん上がっていきます。暑い中での作業は”熱中症”の危険があります。

熱中症を正しく理解し、きちんと対策をとって、暑い時期を安全・健康に過ごしましょう。

また、屋外での一人作業では、発見が遅れ、手遅れになることがあります。自らを守るためにも作業を行う人それぞれが熱中症に関する十分な知識を持つことが必要です。

熱中症とは

熱中症とは、高温の環境下で体温調整や循環機能などの働きに障害が起こる病気です。

私たちの体は、汗をかくことで体温を一定に保っていますが、暑いときに汗で水分や塩分を過度に失うと熱中症となります。熱中症になると、ひどいときには意識を失ったり死亡するケースもあります。毎年夏季には、熱中症により死亡や意識障害を伴う重篤な労働災害が発生しており、平成17年には全国で23名が死亡しています。本年も熱中症の発生が懸念されるところです。

熱中症の症状

次のような症状を認めたら、すぐに管理・監督者に知らせましょう。

- 呼吸が速くなる
- 吐き気がする
- 脈が速く、弱くなる
- 頭痛がする
- 唇がしびれる
- めまいがする
- 反応が鈍る
- 言動がおかしい
- 筋肉に痛みとけいれんがある
- 疲労感、虚脱感
- 耳なりがする
- 嘔吐や下痢がある

病状の例



予防方法

- 1 事前の準備を十分に
 - ① 作業の前には作業者の体調を必ずチェック。
 - ② その日の天気予報に注意し、暑さ（気温、湿度、風速など）を検討する。
 - ③ 適切な作業計画を策定し、作業管理を行い、十分な休憩時間をとらせる。
- 2 水分+塩分を取ろう！

汗をかいてからではなく、作業前から定期的に補給しましょう。水分だけでは、熱けいれんを起こすことがありますので、少量の塩分をとります。また、若干の糖分（3～6%）も含まれていると持久力が向上します。スポーツドリンク等で10～15℃に冷えたものがよいでしょう。
- 3 涼しい服装をしよう！

直射日光の下などでは、綿などの通気性や吸湿性の良い生地で、明るい色調の、首や手足が開放的なものがよいでしょう。体の表面からの放熱を促進します。直射日光のあたる屋外では、つばの広い帽子も役立ちます。
安全帽等を着用して作業する場合には、特に多めに休憩時間をとりましょう。
- 4 日常の健康管理を大切に
睡眠不足のとき、疲れているときなどは熱中症になりやすく、特に二日酔いや朝食抜きでの作業は厳禁です。夜更かしせず早起きして、涼しい時間に運動をおこなって、夏バテしない体をつくりましょう。

熱中症の手当の方法・救急処置

熱中症は、早期の措置が大切です。少しでも異状がみられたら直ちに涼しいところで安静にさせ、水やスポーツドリンク等を与えるなどの手当を行ってください。
回復しない場合及び症状が重い場合などは、医師の手当を受けてください。
また、反応が鈍い、意識がないなどの場合は、手当を行うとともに、ためらわずに救急車を呼びましょう。手当の遅れが生命に関わる場合があります。

